

茶樹の落葉時期と品種間差異について

米元孝一・徳永保利・平川今夫

(宮崎県総合農業試験場茶業支場)

YONEMOTO, T., TOKUNAGA, Y. and HIRAKAWA, I.

Varietal Difference of Defoliation under Natural Condition in the Tea Plants

1. はじめに

暖地ではこれまで茶樹の落葉に関する調査が少ないので、落葉の時期と品種間差異について、昭和41～43年に調査をし、他の特性との関連性を検討したので、その結果をとりまとめ報告する。

II 調査材料および方法

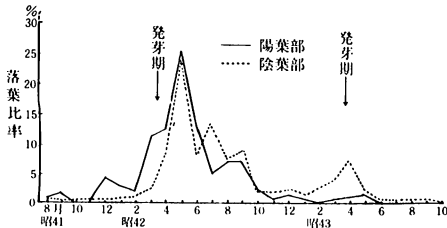
1 供試品種：熟期、耐寒性等の異なる12品種（たかちぼ、やまとみどり、さやまみどり、まきのはらわせ、あさつゆ、べにほまれ、あかね、ck 6、やえぼ、Y 2、やまなみ、ふじみどり）樹令8年生（ただしやまなみ、ふじみどりは6年生）

2 調査対象葉：調査株は昭和41年1番茶芽より摘採せず、各品種2株を用い、1株について1番茶芽枝条から10本の枝（5本は外部の枝で日光のよくあたる部分—陽葉部、5本は内部の枝で日陰になる部分—陰葉部、以下同じ）を選定し、各枝の健全葉3枚を調査対象葉とした。

3 調査方法：昭和41年7月より1ヵ月ごとに落葉状態を追跡調査。なお調査期間中は自然仕立てとした。

III 調査結果ならびに考察

1 落葉の時期：落葉を全般的に見ると第1図に

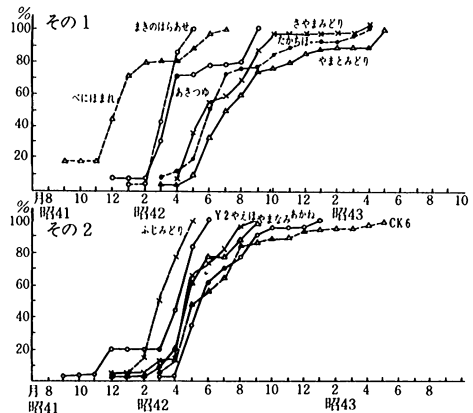


第1図 時期別落葉比率（12品種平均）

示すように、発生翌年の2月まではきわめて少なく3月より多くなり、5月を最高に、9月まで続いた。部位別に見ると陽葉部では3～6月が多くて全体の

62%が落葉、その後漸減の傾向で翌々年の5月までにすべて落葉した。一方、陰葉部では4～7月が多くて全体の55%が落葉、その後漸減し、翌々年の3～4月に再びやや多くなり9月までに殆んど落葉した。

2 品種間差異：品種間差異は第2図に示すよう



第2図 落葉率の推移——陽葉部

に、早生品種は中生品種に比して早く落葉し始め、その進度も早く、晩生品種は落葉の開始時期が遅くその進度も緩慢であった。耐寒性との関係では、弱いものほど冬期の落葉が多く、その進度も比較的早かった。

IV まとめ

落葉は発生翌年の3～9月に多いが、これは3月より根の伸長開始期となり、4～5月にかけて芽は急速に伸育し、また9月までは生長のおう盛な時期であって、新器官の生長による茶樹内成分の転流で老衰化するものと考えられる。また、陰葉部は陽葉部に比べて、落葉の開始期およびその進度が遅く、葉の着生期間が長かった。品種間差異においては、晩生品種ほど着生期間が長かった。その他葉の大小、樹勢等の関係については明らかなのはなかった。